

‘さくらひめ’における緩効性肥料の有効性

農林水産研究所

‘さくらひめ’を9月に定植する作型は、採花終了が翌年6月のため、従来の施肥体系では、追肥に労力が必要でした。

また、草勢を確認しながらの施用は、技術が必要で、生育や品質に差が出てきます。このため緩効性肥料を用いて、施肥の改善とその効果について検討しました。



県育成品種
‘さくらひめ’

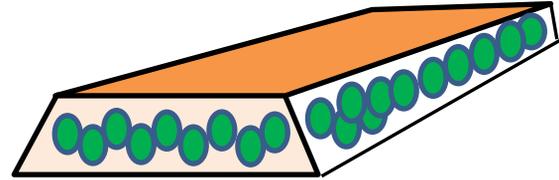
従来の
施肥



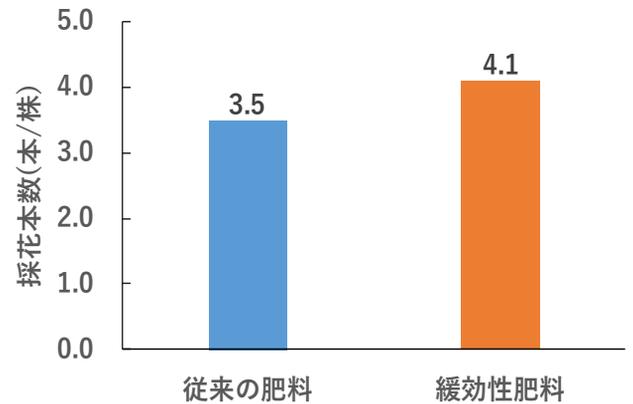
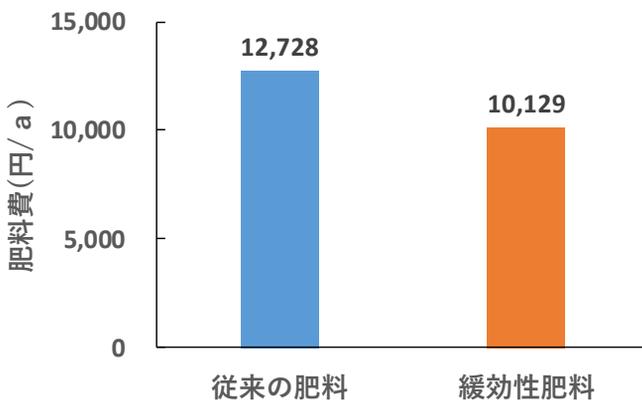
基肥+株間に追肥



緩効性
肥料の
施肥



畝を成型後全肥料を混和



【結果】

緩効性肥料はリニアタイプで肥効期間180日(25℃)をN5kg/a施用することで、次の効果が得られました。

- ① 追肥にかかる労働時間は不要
- ② 肥料費が20%削減
- ③ 採花本数が0.6本/株増加